評価項目	総評(意見・改善策)
保育目標について	保育指針、園の保育理念・方針を基に全体的な計画を作成し、それを職員全員が理解して保育にいかせるよう心がけた。今後はより理解を深められるよう、具体的な仕組み作りをしていきたい。保育目標について子どもの姿からかけ離れた目標にならないよう、まずは子どものありのままの姿を把握し、その上で必要なかわりや援助を導き出し、目標を設定するよう心がけた。毎月のクラス会議でクラス全体や個々についてきめ細やかに振り返りを行い、それを元に次月の目標をたてた。また、共通認識をもって保育ができるよう常に情報共有や必要時、話し合いを行い、
保育について	世間での感染症の流行や発生状況が今までは異なる中、保育者間で話し合いながら保育を行った。給食はなるべく固定の位置にすること、午睡時はなるべく間隔をあげる、登園時の対応をエントランスで1組ずつ行うこと、換気の徹底、保育室内のこまめな消毒等、出来る限りの対応は引き続き行いつつも柔軟に対応できる部分についてはそのように対応した。どんな状況でも子ども一人ひとりの最善の利益を考慮したかわりを心がけ、子どもにとってどうかという視点をぶらさずにそれぞれの事柄を考えた。安心、安定した園生活を保障することはもちろん、子どもが自らやってみたいと思えるようなかわりや主体的に活動できるような保育を心がけた。
行事について	子どもが季節や日本の伝統に触れ、知る機会となるよう工夫して行事を行った。準備はなるべく早めに開始し、当日の動きなどを職員に周知し、子どもたちが安全に楽しく参加できるように配慮した。保護者参加行事については案内を早めに行い、仕事の調整等がしやすいよう配慮した。保護者参加行事であっても、見栄えが優先ではなく、あくまでも子どもが楽しんで参加することができるという軸を大切に企画をした。
分掌・体制	常に変化がある現場の中で状況をよく見て自分の役割を考え、声をかけ合いながら一人ひとりが行動できていた。クラスの保育者だけでは対応できないような状況の時には他クラスや責任者に応援を頼み、何事も子どもを中心に考えるという部分を誰もが見失わずに行動できていた。保育責任者は指示を出すだけではなく、まずは自分で考えてみるような環境を整え、職員一人ひとりの思いを汲み取りながら、出された意見に対してどんな内容であってもそのままにせず、なるべく早く対応することを心がけた。そしてどの職員に対しても常に平等に接することを大切にしていた。
運営	運営責任者との面談、年3回の保育責任者との面談、年度末に保育責任者と管理責任者による三者面談を実施した。職員一人ひとりの目標や現状を共有し、できるサポートを責任者で考えて実際にを行うことにより、働く意欲の向上に繋がるよう配慮した。保育の仕事に従事する者としての責任や自覚をもつことの重要性について、職員がそれに気づき学ぶ意欲がもてるような働きかけや園内研修を行った。
年齢別・クラス運営	同じクラスでも月齢や個々の成長発達によって活動内容を考慮した方が良い場合があるので、時々場合によっては他クラスと過こしたり、活動内容を分けたりとより個々に合った保育となるよう配慮した。その際は担任同士できめ細やかな打ち合わせを行い、安全に楽しく過ごせるよう十分に配慮した。他クラスの状況を積極的に知ろうとする意識をもち、クラスを超えて園全体で子どもたちを把握し保育する大切さに気づき実践することができていた。
保健・安全指導	CO2測定器の値に基づいて、適宜室内の換気を実施。玩具や室内の消毒を毎日実施。手洗いチェッカーを使用した手洗い研修や嘔吐処理の研修を開催し職員全員の感染予防に対する意識や技術の向上を目指した。
園内外研究・研修	職員それぞれの段階に合った研修を受講できるように調整をした。園内研修は、その時期に実際の保育提供の上で必要な内容を責任者間で話し合い選択し職員全員に対して実施。また、防災の日に毎年実施の防災・引き取り訓練は本年も実施。震災による停電想定の中で、実際に防災食を食べたりと半日を過ごした。同日に外部委託での乳幼児応急手当研修を実施し、定期的に緊急時の対応について学ぶ機会を設けた。
情報について	各帳簿を部門ごとに分けてナンバリングし、引き続き管理を行った。次年度への意向もスムーズに行えた。個人情報の管理については引き続き施錠できる場所に安全に保管をし漏洩防止に努めた。
施設・設備	「らびっと広場」を通年活用し、近隣公園等と合わせて戸外活動を行う。砂場や滑り台などの固定遊具で子どもは喜んであそんでいた。使用する中で改良した方がよい点などがあつた場合はその都度話し合い、より快適な環境となるよう取り組むことができた。雑草等の処理も危険がないように定期的に行つた。また、園内の設備の不具合発生時にはその都度報告、修繕に繋げ安全な環境整備に努めた。
施設間交流連携	いっぴり幼稚園運動会参加(2歳児クラスのみ)、永の郷保育園いっぴり運動会参加(2歳児クラスのみ)2歳児交流(いっぴり幼稚園・エッセルおおぞら保育園・泉の郷保育園いっぴり)と、主に2歳児クラスが交流を実施することができた。連携園3園との接続に対する引継ぎを今年度も実施することができた。姉妹園である戸塚おもいやり保育園との交流も行い、2歳児交流(らびっと広場・第2公園・広町広場にて)や各園の行事への参加、職員研修を行った。今後も定期的に交流を実施し、連携を深めていきたい。
家庭・地域との連帯	子どもの様子を保護者と密に共有することができるよう、日々降園時に話す時間を確保できるような人事配置に努めた。個人面談は9月に1度開催し、その他必要時には時間を確保し面談を実施した。保護者への様々な伝達や連絡手段として、内容等により電話・書面・メールを使い分けて行った。またなるべく早めに分かりやすく案内をするよう努めた。地域との交流はまだ実施できていないが、今後秋祭りを地域に開放した行事にすべく年々前進しているところである。
情報発信	園だより、給食だよりを発行。内容は読みやすさ、その時期に合ったものとなるように配慮した。写真販売については子どもの様々な表情や様子が伝わるように、多数アップロードし見やすいように項目を細かく分ける工夫をした。保健関係の情報発信については、玄関のホワイトボードや一斉メールを使用した。次年度からはほげんだよりを活用する予定。
衛生管理について	調理室内のこまめな掃除・消毒を行い、常に清潔な状態を保つことができた。健康管理についても、点検表や手洗い等基本的な対策を徹底した。園内研修として手洗いの研修をし、給食職員だけでなく園全体で衛生管理に対する意識を向上するように努めた。
調理内容について	全員が同じ調理ができるよう新しい職員にも時間をかけて研修することができ、改善点があれば調理室会議で意見交換し実現した。新しいメニューを取り入れることで気付く改善点もあり来度に活かしていきたい。
食育について	毎日の子ども、クラスの状況を実際に給食職員の目で確認し成長発達にあつた食育を計画的に進めることができた。また、毎月クラス担任と会議を行うことにより情報共有を行い、食育に繋げた。
健康管理について	子ども達の身長・体重という数値に加え日々の保育園での生活や連絡ノートから汲み取れる情報を交えて支援を行うことができた。栄養バランスに加え残食が少なくなるよう、振り返りを行い、子どもたちの栄養が満たされるよう努力を行った。
事務管理について	個人情報の管理については引き続き施錠できる場所に安全に保管をし漏洩防止に努めた。書類をナンバリングして管理をすることで業務の効率化を図ることが出来る。